

グループホームなごみ

1. 調査報告概要表

作成日 平成21年4月30日

【評価実施概要】

事業所番号	1070200645
法人名	有限会社グループホームなごみ
事業所名	グループホーム なごみ
所在地	群馬県高崎市上豊岡町902-3 (電話) 027-343-8755
評価機関名	サービス評価センターはあとらんど
所在地	群馬県前橋市大友町2-29-5
訪問調査日	平成21年4月17日

【情報提供票より】(21年2月15日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 12 年 4 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	人	常勤	人, 非常勤 人, 常勤換算 人

(2) 建物概要

建物構造	木造一部鉄金 造り
	1階建ての 階 ~ 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	日額1,300 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円) <input type="radio"/> 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) <input type="radio"/> 無	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	400 円
	夕食	400 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 1,200 円			

(4) 利用者の概要 (2月15日現在)

利用者人数	18 名	男性	5 名	13 名
要介護1	3 名	要介護2	6 名	
要介護3	5 名	要介護4	3 名	
要介護5	1 名	要支援2	0 名	
年齢	平均 85.8 歳	最低	73 歳	最高 97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	豊岡呼吸器内科クリニック(内科・呼吸器科)・とづか歯科
---------	-----------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

このホームの敷地内には、庭木や季節の花、テーブルや椅子等が置かれ、子犬も飼われ、癒しのある空間に工夫されている。管理者は職員を信頼し任せており、職員はケアに対する意見やアイデアを話し合いその結果を報告するようにしている。管理者はそれを受けて実践できるように支援をしている。利用者一人ひとりが地域と繋がりながら、ゆったりと自分のペースで暮らせるよう個別性のある支援に努めている。職員からは、やりがいや責任感を持ってケアサービスの向上を目指し努力している姿勢が伺えた。今後も継続されることを期待したい。

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	①地域密着型サービスとしての理念については、管理者と全職員で話し合い、事業所独自の理念を掲げている。②評価の意義の理解と活用については、管理者が原案の作成を行い、全職員に意見を求めるようにした。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者が原案の作成を行い、職員全員に意見を求めて完成させている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	定期的(3ヶ月に1度)に開催している。全家族には案内を出し、都合のつく家族に参加をしてもらっている。事業所から利用者の様子や活動状況報告を行い、参加者から意見や要望を受け、話し合いをしている。家族からボランティアの申し入れや誕生カード作成等で協力が得られている。市担当者からは、運営に関して助言等受けている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	運営推進会議には家族全員に案内を出し参加を依頼している。また、案内状の中に質問や要望を受ける用紙を一緒に入れて送るようにしている。家族等の意見や要望は運営に反映させるよう努めている。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	散歩時には挨拶をする。近隣者が気軽に立ち寄って休憩をして行く。小学校の運動会や地域の運動会に出かける。事業所の納涼祭に近隣者や近隣のグループホームの方が来訪し、楽しく交流をしている。また、他の法人施設の納涼祭に招待を受けて出かけている。

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	管理者と全職員は話し合っ、サービスのあり方を解り易く示した、地域密着型サービスとしての事業所独自の理念を作りあげている。		
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は理念を共有し、朝礼や日々のケア実践で意識しながら話し合い、理念の実現に向け日々取り組んでいる。理念に基づき、一人ひとりの短期目標も掲げられている。		
2. 地域との支えあい					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	散歩時に挨拶をする。近隣者が気軽に立ち寄って休憩をして行く。小学校の運動会や地域の運動会に出かけている。事業所の納涼祭には近隣者やグループホームの方が来訪し、また、他の法人施設の納涼祭に招待を受け出かけている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の自己評価は管理者が原案を作成をし、全職員に意見を聴き完成させている。前回の外部評価の結果に基づき、全員で話し合い改善に取り組むようにした。		
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的(3ヵ月に1度)に開催されている。全家族には案内を出し、都合のつく家族に参加をしてもらっている。事業所から利用者の様子や活動状況報告を行い、参加者から意見や要望を受け、話し合いを行っている。家族からボランティアの申し入れやバースデイカードの作成等で協力が得られている。市担当者からは、運営に関して助言等受けている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	事業所のことだけでなく、地域密着型サービス連絡協議会の西部ブロック役員をしているので、担当窓口には頻回に訪問し、相談や情報交換を行っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族等の来訪時には、利用者の健康状態や暮らしぶりを報告をしている。1ヶ月の様子をまとめた手紙を家族へ送り報告をしている。金銭に関しては、立替をし定期的に報告を行っている。運営推進会議の記録も送っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議には、家族全員に案内を出し参加を依頼している。案内状の中に質問や要望等を受ける用紙を一緒に入れて送るようにしている。家族等の意見や要望は運営に反映させるよう努めている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者は職員のやりがいのある職場作りに配慮し、職員の定着化を図る努力をしている。入職者に対しては、経験者と一緒に行動しながら、利用者との関係が早く築けるよう配慮し、利用者へのダメージを防ぐようにしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	基礎研修は必須としており、全員が受講するようにしている。市主催の口腔ケアやグループホーム全国大会、西毛ブロック研修、レベルアップ研修、小規模多機能ホーム・グループホーム大会等に参加をしている。研修後は朝礼で報告を行っている。資料は回覧し全職員で共有してレベルアップを図るよう努力をしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型サービス連絡協議会に加入し、西毛ブロックの役員等も受けて交流を図っている。近隣の同業者とは、管理者、職員が親睦会を行い情報交換する等で交流を図っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に、本人、家族等に気軽にホームを見学してもらい、お茶を共にしホームの雰囲気馴染んでもらうように配慮している。入居になってからは、家族の協力を得て馴染みの物を持ち込んだり、面会に来て頂く等で安心感を持ってもらえよう努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	言葉の意味、方言、野菜の名前、調理(きんぴらごぼうづくり、赤飯の炊き方、おはぎづくり、煮物等)の仕方など、日常生活場面で利用者から学ぶことが多い。共に過ごし支えあう関係が築かれている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のかかわりの中で、本人の思いや意向を把握するように努めている。家族からの情報や利用者へ選択してもらおう等で把握に努めている。また、意思疎通が困難な方には、家族からの情報や表情、仕草からも真意を推し測ったり、それとなく確認するようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人、家族等の希望や意向等を確認し、介護計画に反映させるように努めている。月1回ケース会議を実施しており、全職員で意見や気づきを出し合い利用者本位の介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月、ケース会議でモニタリングを行い、気づきやアイデアを介護計画の見直しに反映させている。本人や家族の要望を取り入れつつ、3ヵ月に1度と状態の変化に応じ見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人、家族の状況に応じて、通院や送迎、買い物等必要な支援は柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望するかかりつけ医となっている。また、通院介助は本人や家族の希望に応じ対応している。かかりつけ医が協力医療機関の場合は月2回の往診が受けられる。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合は、本人の意向を踏まえ、家族と主治医、関係者で話し合いを繰り返し、意志確認を行い連携体制で支援をしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応は全職員が行わないように留意している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの体調に配慮しながら、その日、その時の利用者の気持ちを尊重して、できるだけ個別性のある支援を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は希望を取り入れ職員が作成している。食材を切る、下膳する、食器を洗う、買い物等利用者と共に行っている。介助を必要とする方が多いため、職員と利用者が同じテーブルを囲んで食事をしていない。	○	暮らしの場面として、食材を切る、下膳、食器を洗うなどを、利用者個々の力を活かしながら職員と一緒にいるので、同じテーブルを囲み、共に味わいながら楽しい雰囲気づくりに取り組まれることをしてほしい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には週2回であるが、入浴をしたい日、希望する時間に入浴ができる体制を整えている。職員が一方向的に決めず、利用者のその日の希望を確認して入ってもらっている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	テーブル拭き、モップ掛け、新聞取り、犬の餌やり、食器洗い、洗濯物たたみ、ドライブ、花見(菖蒲、桜等)、祭り、買い物、カラオケ、ビデオ、晩酌、ボランティアの来訪等で役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物、散歩、ドライブ、庭やベランダで過ごす等、利用者が戸外に出で楽しめるよう支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者の安全を確保しながら、日中は玄関に鍵をかけずに自由な暮らしを支援している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回消防署の協力を得て利用者と共に避難訓練を実施している。消火器取り扱いの訓練も行っている。近隣者には災害時協力依頼をしている。非常時持ち出し袋も設置してある。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取状況を毎日記録をして、職員が情報を共有している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には長椅子や熱帯魚の水槽、飾りだな、造花、壁には絵画が掛けられている。飾り棚、人形、円卓テーブル、行事の写真等、ホール内の設えに工夫が施されており、生活感や季節感を採り入れ居心地よく過ごせるよう環境に配慮されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビ、整理ダンス、テーブル、家族写真、時計、ミニ鏡台、衣装箱、思い出のアルバム、自分の描いた絵や絵のアルバム等の馴染みの物が持ち込まれ、利用者の居心地よさに配慮されていた。		